

- 奈良県立片桐高等学校 -

(奈良県大和郡山市満願寺町 60 番地 ☎ 0 7 4 3 (5 2) 0 6 7 1)

学 級 数 : 2 2
生 徒 数 : 8 4 2 人
教 職 員 数 : 5 7 人

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

『ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動』

ねらい：教育目標の一つである「人間尊重・自他敬愛に基づく人間関係を深める。」ことの取組として、自発的なボランティア活動や地域の人々との交流体験を通して、人間関係を深める。

特別養護老人ホーム訪問

- ・ 第1学年「家庭一般」で高齢者の疑似体験学習をする。
- ・ 在所者と話す。介護の手伝い。『たこ焼きパーティー』をする。在所者を本校の文化祭に招待し、見学の世話をする。

最寄りの駅・派出所訪問

家庭クラブ委員が手作りの菓子を持ってJR・近鉄の駅、派出所を訪問する。

通学路清掃

年3回、学年単位で実施する。学校周辺の道路、田畑に落ちている空き缶やゴミを拾う。田畑で働いている人や出会う人に挨拶をする。

『勤労生産にかかわる体験活動』

ねらい：校内の施設設備の整備や修理を通して、ものを大切にする心や愛校心を培う。

施設設備の補修・美化

自教室の机の補修、教室・廊下等の整備・美化を行う。

『国際交流にかかわる体験活動』

ねらい：教育目標の一つである「広い国際的視野と豊かな国際感覚をもった人間を育成する。」ということの具現化に向けて国際交流を体験する。

学校設定科目「国際理解」(第2・3学年)において、広く国際理解について学習する。

第1学年「現代社会」(4時間)で韓国について、LHRで修学旅行について、学習する。

姉妹校等の留学生との交流

留学生の受け入れ、派遣による交流を行う。

ベトナム料理講習会・家族とのコミュニケーションを深める料理作り

- ・ 支援委員、育友会員、留学生を招き、料理講習会を行う。
- ・ 第1・2学年(家庭クラブ員)は日本の料理の作り方を理解し、家族と一緒に作る。

(2) 特に工夫や配慮をした事項

第1学年全員が活動の対象だったので、「家庭一般」の授業でクラス単位で疑似体験学習を行った。訪問は、授業時にクラス単位で行うのは時間的に、人数的に無理なので、放課後、定期考査最終日の午後、休業日に上記活動に分かれて行った。日ごろ、本校生徒が世話をかけているということから、数年来実施している。訪問するのは家庭クラブ委員であるが、持参する菓子は多くの有志が作ったもの。

地域や社会に役立つことを自主的に行う、また、地域の人たちと挨拶を交わすことなどを目的として実施している。美化委員及び生徒会役員が、全校集会・学年集会・あるいはポスター等で呼びかける。各クラスLHRで、美化委員が趣旨を説明し、話し合うことによって参加を促す。

毎年継続して実施している。LHRで担任より、学年集会で学年主任より趣旨説明をする。全学年22学級が学年毎に学級単位で実施する。2学期末に第1学年、3学期に第2・3学年が行う。

机の天板補修は、事前に美化委員が傷んでいる机をチェックし、担当する生徒がグラインダーで天板の表面をなめらかにした後、他の生徒がニスを塗る。

自教室、廊下、階段等の清掃、ガラス拭きをする。最後に、ワックス剥離剤などを用いて床・廊下等を洗浄し、ワックスをかける。

豊かな国際感覚をもつために、日本の民族、言語、文化、伝統等について学習し、知識を深める。また、世界の文化、宗教、言語、生活、食文化等について学習する。夏期休業等に県内の文化遺産等を見学し、レポート作成し、授業で発表する。

第2学年修学旅行(韓国)の事前学習として実施する。「現代社会」では韓国の

地理・歴史・文化等について、LHRでは修学旅行や現地高等学校との交流会について学習する。

短期(約3週間)・長期(約1年)留学生の派遣、受け入れによる交流を行う。

受け入れ留学生は、本校生徒の家にホームステイし、主に英語科の各学年クラスの実習を伴う授業に参加する。また、LHR・部活動等でも交流を深める。

支援委員、育友会員(国際理解教育部)、本校ALT夫人、近隣短期大学の受け入れ留学生(韓国・中国・タイ・ベトナム・インドネシア・ネパール)を招き、ベトナム料理を作る。招いた留学生からそれぞれの国の料理、生活、文化等について聞く。

講習会に参加した家庭クラブ委員・国際交流委員(生徒会各種委員会)が家庭科の授業でその内容を報告する。家庭科教員は、生徒に日本の伝統的な料理に関心をもたせ、実際に各家庭で作ることを促す。その料理に関する『コミュニケーションレシピ』を第1・2学年に配布する。家族とのコミュニケーションを深めるため、家族と一緒に作ることも指導する。また、本校生徒が留学する際にこのレシピを持参し、訪問先でコミュニケーションを深めるための資料にする。

(3) 成果等

『ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動』()

- ・ 活動した生徒は、将来の進路を考えていくうえで、体験を通して福祉の仕事に大きく関心をもつようになった。
- ・ ホームの施設長が本校の卒業生ということ、距離が近いということなど、継続して活動できる。
- ・ 在所者は「若い人に来てほしい。元気が出る。」と望んでいる。また、「高校生の年齢だと、孫の年齢ぐらいの小学生とは違い、世間話もしやすい。」という声もあった。
- ・ 『たこ焼きパーティー』はとても好評だった。
- ・ 生徒の活動が評価され、4月に行われるホームの『花見会』に招待されている。
- ・ 捨てられている空き缶やゴミの多さに驚いたようである。すべて本校生徒が捨てたわけではないが、地域の人に大変な迷惑をかけていることも感じていた。

『勤労生産にかかわる体験活動』()

- ・ 作業を分担し、自分の役割をしっかりとやることで、クラスの生徒同士が協力しあえたことを体感できた。
- ・ 実際に補修、清掃、ワックスがけ等の作業をすることによって、難しさや費やすエネルギーの多さなどを体験できた。
- ・ ものを大切にすることを感じ取った。数年来、生徒の器物破損はほとんどなくなっている。

『国際交流にかかわる体験活動』()

- ・ 普段おとなしい生徒が、本校の男子留学生(オーストラリア)や他の留学生とよく話をするようになった。
- ・ 参加した生徒は、アジアからの留学生が話す日本語の流暢さに驚き、英語の学習にもっと力を入ると話していた。
- ・ 参加した保護者は、料理のレパートリーが増えたと喜んでいて。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

【学校推進体制】

学校長・教頭・各学年主任・国際理解教育部長・環境整備部長・生徒会担当・家庭科教員で推進委員会を組織する。

【学校支援委員会の構成】

勤務先又は機関・団体名	職名
育友会	顧問
育友会	元副会長
食品店	店主
建材業	経営者
片桐高校	学校長
〃	教頭

"	生徒指導部長
"	環境整備部長

- (2) 成果等（推進体制の充実、関係者との連携・協力の観点から）
 特別養護老人ホームの施設長が本校の卒業生であり、本校生との活動を積極的に受け入れ、評価している。活動を継続していくことも承諾してくれている。

3 今後の課題と次年度に向けての改善点

『ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動』

- ・ 生徒が積極的にかかわっていくために、福祉、介護等についてさらに知識を身に付けていく必要がある。
- ・ 活動の企画・運営が担当教員に負うところが大きいので、生徒の創造力や企画力を育て、生徒自ら活動の内容を企画できることが望ましい。
- ・ 現状では、授業時間外に活動せざるを得ないが、休業日は避けて実施する。
- ・ 日ごろ、校内でもジュースのパック等をゴミ箱に入れない生徒がいる。通学路清掃等をするをとおして、ボランティア精神をはぐくむと同時に、地域の環境美化に心がけることを自覚させる。

『勤労生産にかかわる体験活動』

- ・ この活動を数年間続ける中で、机に落書きをするなどの行為が徐々に少なくなっている。教員の指導と並行して、ものを大切にする気持ちを強く持つようにこの活動をさらに充実していく。

『交流にかかわる体験活動』

- ・ 交流に積極的な生徒とそうでない生徒がいる。できるだけ多くの生徒がそれぞれの活動の中で、自発的に取り組むことができるように改善する。
- ・ 生徒が豊かな国際感覚をもつために、自分自身、自分の回りのことについて理解することを体験的に学習する活動を充実する。

活動の実施状況						
学年等	体験活動の種類・内容	期間・日数・単位時間数	教育課程上の位置付け	活動の場所	活動の対象	指導者
第1学年	「家庭一般」で高齢者の疑似体験学習をする。 ・特別養護老人ホーム訪問、在所者との話し合い、介護の手伝い ・『たこ焼きパーティー』 ・在所者を本校の文化祭に招待	9時間	家庭科 家庭クラブ奉仕活動	本校 老人ホーム	特別養護老人ホーム在所者	家庭科担当教員 当該学年教員
家庭クラブ(第1・2学年)	最寄りの駅・派出所訪問	4時間	家庭クラブ奉仕活動	J R・近鉄駅派出所	鉄道職員 警察官	家庭クラブ担当教員
全学年	通学路清掃	9時間	生徒会奉仕活動	通学路 学校周辺地域		生徒会担当教員 部活動顧問
全学年	学年毎に、学級単位で実施。2学期末に第1学年、3学期に第2・3学年実施。自教室の机の補修、教室、廊下、階段等の清掃・ガラスふき及びワックス掛け	9時間	特別活動	本校	本校の施設設備	支援委員 当該学年教員
第2・3学年	学校設定科目「国際理解」 県内の文化遺産等訪問し、調べ学習を行う。	10時間	学校設定科目	本校、県内の文化遺産等		国語、地歴公民、英語科教員
第1学年	(来年度の韓国への修学旅行における現地高等学校生徒・教職員との交流会、海外体験活動の準備として)「現代社会」(4時間)韓国について、LHRで修学旅行について学習する。	6時間	授業 特別活動	韓国訪問高等学校、ソウル市内等	韓国、生活、文化	公民科教員 第2学年教員
全学年	留学生との交流活動	4時間	授業 部活動 特別活動	本校	留学生	国際理解教育部教員を中心に、 各授業担当教員
第2学年	支援委員等、外部の人を招き、ベトナム料理を作る。 ・講習会に参加したクラスの代表が、クラス生徒に内容を報告。 ・教員が日本の簡単な料理について説明する。 レシピを第1・2学年に配り、家族のコミュニケーションを深めるため、家族と一緒に作ることを指導する。	8時間	家庭科	本校 各生徒の家庭	県内短大への留学生 生徒の家族	支援委員 育友会員 家庭科担当教員